

～不安の大きい異国での受診 医療通訳の現状と課題～

令和4年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】 採択課題

課題名：持続可能な医療通訳者派遣制度の構築に関する研究

研究代表者：社会福祉学部 教授 細越久美子

課題提案者：奥州市、奥州市国際交流協会

研究メンバー：吉原秋・熊本早苗（盛岡短期大学部）、アンガホッフア司寿子（看護学部）、石橋敬太郎（東北学院大学）、木地谷祐子（北上市）、佐々木甚久・高橋佐緒里（奥州市協働まちづくり部）、渡部千春・ケネディ芳子・曾穎（奥州市国際交流協会）

技術キーワード：多文化共生、医療通訳、医療通訳派遣制度、医療従事者

▼研究の概要（背景・目標）

奥州市では、平成31年度から、岩手県では先駆的に医療機関への医療通訳派遣制度を開始した。より外国人住民や医療従事者側のニーズに応え制度を継続していくことをめざしている。そこで本研究では、医療従事者が感じる実際の医療通訳の現状と課題、およびニーズを明らかにすることを目的とした。

▼研究の内容（方法・経過）

- 1.調査対象：医療通訳を利用の経験がある岩手県内の医療従事者
- 2.調査内容：医療通訳利用の現状、利用してよかったことや困難感、課題やニーズ、要望
- 3.調査期間：令和4年1月～2月
- 4.調査方法：無記名自記式質問紙調査

▼研究の成果（結論・考察）

- 1.22施設220部配布し回答24名（回収率10.9%）
- 2.医療従事者は医療通訳の際、「専門用語を使わない」「わかりやすく話す」など配慮
- 3.医療通訳の必要度「業務上いると助かる」9割
- 4.医療通訳を介してよかったことは、「患者とのコミュニケーションがうまくいった」8割
- 5.奥州市医療通訳制度のよかったことは、「受付から会計までの付き添い」「柔軟な対応」「顔の見える関係の安心感」など
- 6.課題は「周知不足」、必要な時に利用でき、緊急時でも対応できるシステムへのニーズ

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

- 1.通訳ツールが進化するなか、対面での医療通訳による円滑なコミュニケーションを実感
 - 2.医療通訳派遣制度の周知が求められる
 - 3.今後はウェブを活用し、情報周知や、在留外国人・医療従事者・派遣機関ともスムーズなやりとりや対応が可能となる方法を検討する
- 調査に協力頂いた皆様に感謝申し上げます

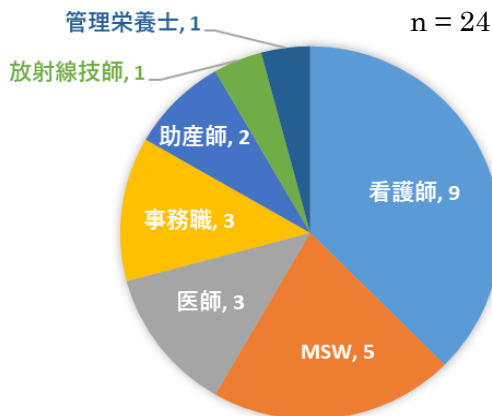


図1. 対象者の職種

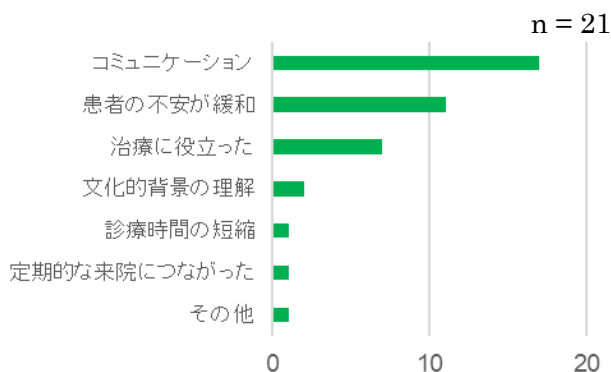


図2. 医療通訳（者）を利用してよかったこと（複数回答）

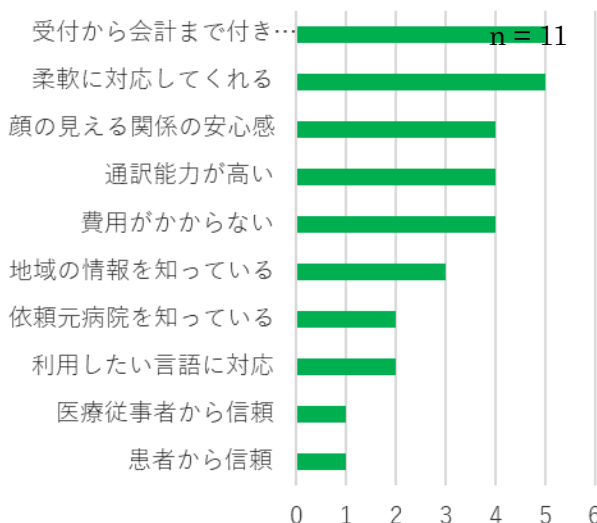


図3. 奥州市医療通訳派遣制度のよかったこと（複数回答）